

---

# 無実滅ぼし隊

八石マムミラー

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

無実滅ぼし隊

### 【Nコード】

N5484C

### 【作者名】

八石مامミラー

### 【あらすじ】

無実、それは最悪な事。その人は何にもしていないのに悪い事される。信じられない。それらを滅ぼす為だけに作られた団。それが無実滅ぼし隊である。本当に無実を滅ぼしたいよおー

## FILE 0：プロローグ

この物語は無実キャラを保護し、その無実にした者を倒す、無実にされたものを助ける物語。

主人公は涼宮ユウヒ、別名シャーサク。無実が一番嫌いな人間。

涼宮ユウヒ（シャーサク）はこの無実滅ぼし隊のリーダー兼ボス兼オーナー兼小説作者である。

作者だからシャーサクと言うニックネームがある。

だが、本名は涼宮ユウヒだ。

現在メンバーは僕が集めた10人＋僕だ。

ユウヒ「今日の任務は何だ」

ブルース「ユウヒリーダー。最初の任務が来たみたいです。」

リン「任務はこれアル。」

任務：プラスルとマイナン！山の灯台！！

ロケット団にある灯台の石を盗まれた。

無実になった（泥棒呼ばわりされた）サトシ、ハルカ、マサト、タケシを助ける。

ブロント「コイルはともかく、弟はロケット団を見たんだからそいつは無実とわかるだろ」

ルファ「霧でわからなかったかもしれません。サトシ達がグルだと思っただ可能性もありますよ」

マゼンダ「こうなったら任務行きたいわね。」

ユウヒ「なら、僕、マゼンダ、ブロントの3名で任務へ行く」

ティンク「がんばってえー」

僕たちは任務に行った。

サトシ「ロケット団だ。」

影の中にロケット団のムサシコジロウニヤースがいた。

ムサシコジロウニヤース「ウフフフー」

サトシ「ピカチュウ、10万……」

マゼンダ「まってえー」

サトシ「何」

マゼンダ「ここから離れなさい。」

ブロント「ユウヒさん。ルーラを」

ユウヒ「このサトシ達をポケモンからくり屋敷へバシルーラ……」

「……」

そしてロケット団は灯台の姉と弟に泥棒扱いされ、ボコボコになりました。

## FILE 1：新メンバー！！

ユウヒ「メンバーを増やそうと思う」

フロント「参戦です。」

マゼンダ「フロントさん、誤字。賛成でしょ。」

マゼンダは強気でかなりのつんでれた。フロントのような馬鹿と相性がいい。

ユウヒ「新メンバー3人、来て下さい。」

愛海「マナの名前は安西<sup>あんだい</sup> 愛海<sup>まなみ</sup>。かなりのギャルだけどね。この無実滅ぼし隊のメンバーとして参加を許可いただいたの。宜しくね」

この人は愛海、茶髪のウエーブヘアを2箇所<sup>ふたところ</sup>に結んでおり、かなりの可愛い顔、ギャル界でもかなり上の位を持ち、無実滅ぼし隊のメンバーとして加わった。

ジルバ「後は誰ですか。新メンバー」

佐古「僕さ、佐古<sup>さこ</sup> 克己<sup>かつひこ</sup>って言うんだ。良くいじめられ、無実<sup>むじつ</sup>にされているからそれらはもう、許せない。なのでこの無実滅ぼし隊に入団したんだ。」

ユウヒ「最後は無実滅ぼし隊として戦闘部隊も欲しいな。攻撃系キヤラも欲しいからこいつだ」

狩野「俺の名は狩野<sup>かりの</sup> 雄二<sup>ゆうじ</sup>。俺はこの隊に雇われたんだ。ずっと刑務所に入っていたからこれぐらいの幸せは欲しかったぜ。俺の攻撃力は隊最強さ。力になるぜ」

この狩野雄二は坊主頭でかなり攻撃力がありそうな奴だった。

リン「話し合いは何ですか。」

ユウヒ「無実作成隊と言う悪の組織がつい最近に現れたんだ。そいつらは人を無実にして、なおかつ入団した人達はかなりお金を支給されている。その入団者達は全員許せない。無実にする人と手を組んでいるんだから。しかし殺したら危険だ。死の苦しみに味わってもらい、その人たちを自殺に追い込むんだ。」

愛海「マナに任してください。マナはこういう事に関しては最強クラスの人間です。父もお金持ちだし、お金で人をどんどん雇えますから……」

**FILE 1：新メンバー！！（後書き）**

新メンバーも登場したし、真の目的も登場。次回、相手との戦いもあると思います。

キャラクター紹介もしますんで物語が分離する可能性あり。。。

FILE 2 : 椎葉歩…… (前書き)

相手として椎葉歩と言う奴が出てくる。

椎葉歩が本当はどんなキャラか予想は出来るよね

FILE 2：椎葉歩……

僕は涼宮ユウヒ。無実滅ぼし隊の隊長だ。

僕は色々な世界を実は冒険していたエリート冒険者だった。

しかし、一番嫌いな事が誰かが無実になること。なので僕はその無実滅ぼし隊を作成したんだ。

ユウヒ「愛海さん、佐古さん、鳥山さん。無実作成隊の奴のメンバーの椎葉歩あゆむと言う奴を尾行し、そして色々な作戦を3人で独自に立てて精神をぼろぼろにさせる。無実の人を増やさない為に。」

愛海「ユウヒさん、わかりました。」

佐古「絶対任務をこなして見せます。」

鳥山「任務は何だあ。」

ユウヒ「椎葉歩と言う人は天己里園社てんみりえんしゃと言う会社に入っており。その会社の雑用の仕事に2名、会社の社員に1名登録しておく。椎葉歩に精神的ダメージを与える。」

愛海&佐古&鳥山「了解しました。その任務絶対成功させます！！！！」

その3人にその任務を任せた。  
どれぐらい任務で頑張ってくれるか楽しみ。

ユウヒ「僕入れて11名で任務をこなしていこう。その3人は資金援助するし、僕が色々細工もして成功してやる！！！」

フロント「ユウヒ様。頑張れ」

マゼンダ「応援しているよ」

クロウ「………やっと任務か」

**FILE 3 : ポケダン×ゲンガー (前書き)**

椎葉歩関係とは別の話になります。  
今回もポケモンネタです。

### FILE 3 : ポケダン×ゲンガー

ブロント「無実滅ぼし隊の任務が出来ました」

ユウヒ「ブロント、何」

ブロント「ポケダンの世界の主人公のポケモンがゲンガーに無実の罪を着せられています。」

ユウヒ「なんだって……」

ブロント「ゲンガーを殺さない程度に痛めつけ、そして町に説得+ゲンガーに謝罪ぐらいしましょう」

マゼンダ「ちなみに主人公ポケモンたちは」

ブロント「そのうち戻ってくるときに無実を証明されているだろう」

ユウヒ「ジルバ、テミ、ミドリ、ルファ。4名でこの任務へ挑戦して来い。お前らはポケモン変身機に入れ」

ジルバはボスコドラ、テミはハピナス、ミドリはハウオウ、ルファはキルリアに変身した。  
強いポケモンばかりだ。

ユウヒ「お前ら、ポケダンの世界にレッツゴー」

ジルバ、テミ、ミドリ、ルファはポケダンの世界の主人公基地付近にワープした。

ジルバ「ここが……」

テミ「ポケダンの」

ミドリ「世界か」

ルファ「ゲンガーを倒すぞ」

ゲンガー「よ、呼んだ……」

ルファ「お前を殺す。アイツは人間だったが世界を救う為にポケモンになった奴」

ミドリ「サーナイトを捨てたのは他の悪い人間」

テミ「サーナイトを捨てた人間はキュウコンを奪う為、そしてその所為で異変が起きるようになった。」

ジルバ「ゲンガー、無実にするようなゲンガーは死ぬしかない」

ゲンガー「あわわわわ、そいつが人間だったから言ったんだ。お前らにはかんけいねえ」

テミ「私達が」

ジルバ「オレ達が」

ミドリ「アンタを」

ルファ「クロス」

#### FILE 4：ポケダン×ハスブレロへの説得

ゲンガー「フッフ、俺に勝てるかな」

そこにハスブレロが現れた。

ルファ「ハスブレロさん。『主人公』に殴っただろう」

ハスブレロ「だって人間からポケモンになった奴だろ。今まで信用していたが今回は倒すしかないだろ」

ボスコドラになったジルバがハスブレロに話しかける。

ジルバ「その『主人公』は実はポケモンの世界を救う為の勇者がポケモンになり、自分の名前以外を記憶喪失になった奴。サーナイトを捨てた人間は別。」

ハスブレロ「『主人公』は本当に悪くないのか……」

ミドリ「そうだ、でもそいつを無実なのに殴られたんだからハスブレロ。お前はどうなるかわかるだろうな」

ハスブレロ「どうなるかって」

ミドリ「アタシとボスコドラのジルバに合計3回殴られる。それでどうだ。」

ハスブレロ「『主人公』が本当に無実ならその証明を話してよ。それが信じられるならおれを殴れ」

正直に話した。

ハスブレロ「わかった。信じよう」

ゲンガー「ハスブレロ、だまされるな」

ミドリ「ゲンガーさん。貴方はイジワルズで人に迷惑、『主人公』を無実なまでした奴。キャタピーさんは貴方のチームに入りたくないのに無理矢理入れと言った物。」

ハスブレロ「おれもゲンガーを倒します。」

ルファ「決まりですね……」

無実滅ぼし隊&ハスブレロとゲンガーの戦いは始まった!!!

ゲンガーは弱そう。すぐに勝利しそうだが……

ゲンガー「なら一人ずつ俺と戦おう。そしてお前ら全員が俺に勝てたらお前らの勝ちだ。」

ハスブレロに幸せの種を99個与え、レベル99にした。

## FILE 5 : ポケダン×ラスト

ジルバ、テミ、ミドリ、ルファ、ハスブレロの5人は全員ゲンガーに勝利すれば無実にしたゲンガーを辛い思いに出来るはず。

バトルは開始

ジルバVSゲンガー

ジルバ「この攻撃は毒に強い『じしん』」

ジルバの勝ち

テミ「回復攻撃ですわ」

ゴースト系は回復に弱いのでテミの勝ち

ルファとミドリは勝利

ハスブレロVSゲンガー

ハスブレロレベル99は強い。ゲンガーに勝利

テミ「任務かんりよーーーーー」

このテミヤジルバたち4人は元の世界に戻った。

FILE 6：10月28日までに更新を記念し、パーティー

ユウヒ「07年10月28日までに更新を記念し、パーティーをしま  
す。」

フロント「パーティーか」

マゼンダ「準備が必要」

パーティーの準備をした。

ジルバ「鎧を脱ぐと言うギャグ」

ルファ「女装をフロントと一緒に」

フロント「ケツ…」

テミ「ダンスの練習」

リン「美味しい日になるといいな。ケーキとか」

マゼンダ「じるば、買い物行け」

ジルバはパシリだった。

こうして10月28日になってしまった。

ユウヒ「よしーパーティー」

ジルバ「鎧を脱いで走る」

ジルバは早く、リン以上、ティンク越えるスピードだった

フロントとルファのミニスカートでダンス。マゼンダもダンス、  
テ  
ミもダンス

皆さんでケーキを食べ、パーティー終了

ユウヒ「新しい任務が来たぞっ——————」





ユウヒ「任務は次回に」

FILE 6：10月28日までに更新を記念し、パーティ（後書き）

二日で創った番外編です。

## FILE7：反逆のハリス

ユウヒ「会議はじめー」

マナ「ユウヒさん。今日の会議は」

フロント「ナンだろう」

ユウヒ「今日の依頼は大量にあるが一番重要なもの。それはハリス・アイシクル殿の親からの依頼。ハリス・アイシクルを発見したら仲間として冒険をしろと言う依頼だ。」

マナ「マナがやります」

マゼンダ「マナ、貴方ができるの」

マナ「任してください。」





ブルース「ハリスって誰」

シルバ「ダークエルフの少年」

ミドリ「悪いアマゾネスには許さないね。アマゾネスとして」

ルファ「エルフとしてもその悪いアマゾネスは許せない。エルフの一族を襲ったから」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5484c/>

---

無実滅ぼし隊

2010年10月21日22時06分発行